

'15.9.30

# ネット鮮魚取引で新たな試み

## CSN社 羽田空港拠点に「超速鮮魚」

CSN地方創生ネットワークが運営する鮮魚インターネット販売事業「羽田市場」が29日スタートし、物流拠点となる羽田空港東貨物地区内の「鮮魚センター」が記者団に公開された。同社は農水省補助事業の6次産業化中央サポートセンター登録プランナーの野本良平氏が代表を務め、今までにない鮮魚流通により、消費者に新たな価値を提供し、生産者の所得向上をめざすという。

## 全国の朝獲れ、即日納品可能に

「羽田市場」の仕組みは、ANAカーゴの00円、1万円、漁画を見ながら希望の魚を全国から空輸で集荷、羽田空港内のセンターで仕分け、要望に応じて一次加工まで、その日の昼夕方までにユーザーに納品、従来の流通より1日早く食卓に乗せることができるところから「超速鮮魚」のブランドで展開する。取引はすべてネット上で完結し、お任せセットの「超

速鮮魚」のブランドで展開する。取引はすべてネット上で完結し、お任せセットの「超



質問に答える野本社長  
(左は平将明衆議院議員)



鮮魚仕分け場の内部

用意されている。相対、セリ取引に参加するには3万円の年会費が必要となる。

事業開始にあたり、同社は羽田空港東貨物地区内に3億円を投じ、閉鎖、低温型で加工もできるセンターを設置。初年度21億円、会員6000人の確保をめざす。同社と

は、漁師個人を含む全国の約300の出荷者が契約、北海道紋別市には自社集荷拠点を開設し、初日は約40の魚種の購入が可能となっている。

「魚の味は獲れる時期と場所、それに鮮度で決まるもので、不安だ」とい声はほとんどない（野本社長）という。サービス提供エリアは、羽田空港から配達可能な首都圏エリアに限るが「センターのハブ機能を使えば、水揚げから24時間以内にアジア諸国への配送も可能」とし「輸取出引の方が、高値で販売できるのが現状」で、今後チャレンジしていきたいと話した。